

# 今後の天候と凍霜害に対する農作物等の技術対策について

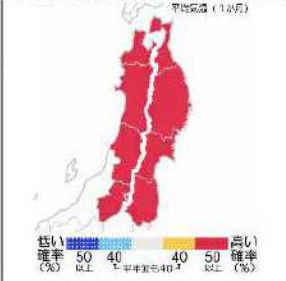
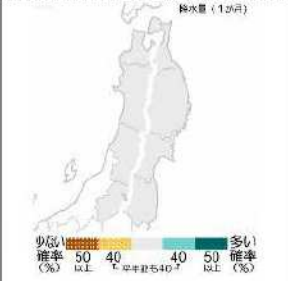
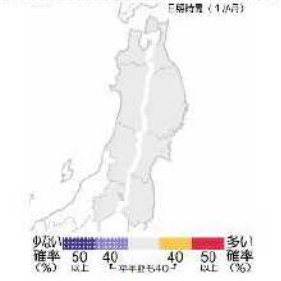
令和3年4月2日  
山形県農林水産部  
農業技術環境課

3月25日に仙台管区气象台から発表された「1か月予報」によると、東北日本海側は平均気温が高く、降水量と日照時間がほぼ平年並みと予想されています。

4月はさくらんぼ等の果樹を始め、農作物が凍霜害に遭う危険度が高まることから、適切な管理による被害防止が重要となります。

こうした状況を踏まえ、下記のとおり、今後の天候と凍霜害に対応した農作物等の管理を徹底してください。

## 1か月の平均気温・降水量・日照時間

		平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
東北	日本海側	低10 並30 高60% 高い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	低10 並30 高60% 高い見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率です				

1か月予報（3月25日 仙台管区气象台発表）

## 記

### 1 共通

- (1) 3月以降、気温が平年より高い状態が続いているため、気象や生育等の情報収集に努め、農作物や圃場をこまめに観察して適期に作業を行う。また、農業資材等は早めに準備しておく。
- (2) これから播種・定植を行う農作物については、前年までの作業日誌と照らし合わせて無理のない作業計画を立て、慌てず計画的に作業を行う。
- (3) 春は農作業が競合し、特にトラクター作業中の農作業事故が発生しやすい時期であるため、落ち着いて機械を操作し、農作業事故を防止する。

### 2 水稲

- (1) 移植計画に合わせて慌てずに種子予措、育苗等の作業を進める。塩水選、種子消毒を適正に行い、浸種は、品種ごとに必要な積算温度をしっかりと確保する。浸種の水温は10℃～15℃とし、特に、浸種開始の初日は適温になるように水温を調整し、低水温にならないよう十分留意する。播種後は、適切な温度管理、水管理で健苗を育成する。

- (2) 土壌診断に基づく土づくりや、圃場の均平、畦塗り、圃場の乾田化など、適切な管理ができ、気象の変動に対応できる圃場の準備を進める。
- (3) 大型機械での作業が増えるため、安全に十分配慮して余裕をもって作業を進める。

### 3 果 樹

#### (1) 凍霜害対策

さくらんぼの発芽期と雌しべの伸長状況をみると、3月31日現在の生育は平年並～5日程度早いと推察され、低温（降霜）に弱い時期になることから、防霜対策を徹底する。

#### (2) 土壌乾燥対策

春先に土壌水分が少ないと霜害が発生しやすくなるとともに、結実率の低下や初期生育の停滞にもつながることから、土壌が乾燥している場合は1回あたり20mmを目安に、積極的に灌水する。また、開花期間中も、乾燥が続く場合は灌水を行う。

#### (3) 病虫害防除

生育初期の防除が遅れないように実施する。特に、近年発生が拡大しているりんご黒星病とももせん孔細菌病は、初期感染を防止することが重要であることから、次のことに留意して防除を実施する。

りんご黒星病は、展葉期から一次感染の重点防除時期となる。現在のところ、「ふじ」の発芽期は、平年より5～7日程度早くなっていることから、生育状況をよく観察し、防除時期を失しないように注意する。

ももせん孔細菌病は、発病枝の切除が有効な防除方法となる。開花期頃から春型枝病斑が見られてくることから、摘蕾・摘花・摘果と合わせて、発病枝の切除を実施する。

#### (4) 結実対策

平年より開花時期が早まることを想定し、早めに人工受粉や防風ネット設置等の準備を行う。また、ポリネーション用ミツバチは、「佐藤錦」の開花始め頃に導入されるように養蜂業者と細やかな調整を行う。

### 4 野菜花き

#### (1) ハウス等施設栽培

寒暖の差が大きい時期であることから、適正な温度管理に努める。なお、低温が予想される場合は早めにハウスを閉め、内張りカーテン、トンネルの多層被覆で夜温の低下を防ぐ。

たらの芽は、収穫が早まるため、促成開始を遅らせるなど計画的に管理し、継続出荷に努める。

#### (2) トンネル栽培

定植して間もないすいか、メロン等のトンネル栽培では、ホットキャップを設置し、適正な温度管理に努め、活着・生育促進を図る。低温が予想される場合は、早めにトンネルを閉め、不織布等を被覆する等の保温を徹底し、茎葉やつるがトンネル資材に付着しないようにして霜害を防止する。

### (3) 露地栽培

アスパラガス、にら、りんどうは、施肥や病虫害防除等の作業を遅れずに実施する。

さくら「啓翁桜」は、幼果菌核病の防除期が開花始期から満開期であることから、適期防除に努める。

## 5 畜産

(1) 牧草の生育は地域差があるため、オーチャードグラス等のイネ科牧草の萌芽が始まった草地については、早春追肥など適期作業に努める。

青刈とうもろこしは、播種時期が遅れないよう、圃場の準備を進める。

(2) 放牧については、放牧草地の状況を確認し、放牧順序の早い牧区を優先して牧柵の準備を進める。また、放牧予定牛の選定、予防注射、そして放牧馴致についても計画的に準備を進める。

放牧草地は、初期に放牧する牧区にのみ窒素成分量で4 kg/10aを目安に早春追肥を行い、他の牧区は追肥時期を遅らせ、牧草の生育が採食量を上回らないように管理する。